

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号

特許第7018475号

(P7018475)

(45)発行日 令和4年2月10日(2022.2.10)

(24)登録日 令和4年2月2日(2022.2.2)

(51)国際特許分類

F I

A 6 1 F 13/49 (2006.01)

A 6 1 F

13/49

3 1 5 A

A 6 1 F 13/51 (2006.01)

A 6 1 F

13/51

請求項の数 8 (全18頁)

(21)出願番号 特願2020-107162(P2020-107162)
(22)出願日 令和2年6月22日(2020.6.22)
(65)公開番号 特開2022-1232(P2022-1232A)
(43)公開日 令和4年1月6日(2022.1.6)
審査請求日 令和2年6月22日(2020.6.22)

(73)特許権者 000110044
株式会社リブドゥコーポレーション
愛媛県四国中央市金田町半田乙4 5 番地
の2
(74)代理人 110002837
特許業務法人アスフィ国際特許事務所
(72)発明者 池内 昌俊
徳島県美馬郡つるぎ町貞光字小山北8 9
- 1 株式会社リブドゥコーポレーション
イノベーションセンター内
審査官 大山 広人

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 使い捨ておむつ

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

前側胴部と後側胴部とこれらの間に位置する股部とを有し、前側胴部と後側胴部とが接合されることによりウェスト開口部と一対の脚開口部とを有するパンツ形状に形成された使い捨ておむつであって、

前記おむつの少なくとも股部には、トップシートとバックシートとこれらの間に配された吸収性コアとを有する吸収性本体が設けられ、

前記吸収性コアは、前後方向の前側から、前側部と前側中間部と中央部と後側中間部と後側部とを有し、前側部と後側部は中央部よりも幅広に形成され、前側中間部と後側中間部はそれぞれ中央部から前側部または後側部に向かって幅が漸増するように形成され、

前記吸収性本体の外側には外装部材が設けられ、前記外装部材は前側胴部と股部と後側胴部に配置されており、

前記外装部材には、股部を横断し、脚開口部の前側の縁に沿って延びる前側脚部弾性部材と、股部を横断し、脚開口部の後側の縁に沿って延びる後側脚部弾性部材とが設けられ、前側脚部弾性部材は、吸収性コアの前側部および前側中間部と重なり、後側脚部弾性部材は、吸収性コアの後側部および後側中間部と重なり、

前記前側脚部弾性部材は、吸収性コアの前側部の幅方向の外方部から吸収性コアの前側部および前側中間部と重なる部分にかけて連続的に延びる連続部と、前記股部を横断する部分で断続的に延びる断続部とを有し、

前記後側脚部弾性部材は、吸収性コアの後側部の幅方向の外方部から吸収性コアの後側部

および後側中間部と重なる部分にかけて連続的に延びる連続部と、前記股部を横断する部分で断続的に延びる断続部を有し、

前記外装部材には、吸収性コアの前側中間部、中央部および後側中間部の幅方向の外方に弾性部材が配されていないことを特徴とする使い捨ておむつ。

【請求項 2】

前記前側脚部弾性部材は、吸収性コアの前側部と重なる部分の少なくとも一部および吸収性コアの前側中間部と重なる部分の少なくとも一部が、幅方向に対して 45° 以上の角度で延在し、

前記後側脚部弾性部材は、吸収性コアの後側部と重なる部分の少なくとも一部および吸収性コアの後側中間部と重なる部分の少なくとも一部が、幅方向に対して 45° 以上の角度で延在している請求項 1 に記載の使い捨ておむつ。

10

【請求項 3】

前記前側脚部弾性部材は、吸収性コアの前側中間部と重なる部分で、吸収性コアの前側中間部の幅方向の一方端部 5 % の領域および他方端部 5 % の領域には設けられず、

前記後側脚部弾性部材は、吸収性コアの後側中間部と重なる部分で、吸収性コアの後側中間部の幅方向の一方端部 5 % の領域および他方端部 5 % の領域には設けられない請求項 1 または 2 に記載の使い捨ておむつ。

【請求項 4】

前記前側脚部弾性部材と前記後側脚部弾性部材の前後方向の離隔長さは、股部の前後方向の長さの 20 % 以上である請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の使い捨ておむつ。

20

【請求項 5】

前記前側脚部弾性部材の連続部の後側端は幅方向に対して 25° 以上の角度で延在し、前記後側脚部弾性部材の連続部の前側端は幅方向に対して 25° 以上の角度で延在している請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の使い捨ておむつ。

【請求項 6】

前記前側脚部弾性部材と前記後側脚部弾性部材の間には、吸収性コアの中央部と重なって、幅方向の一方側と他方側に前後方向に延びる股部弾性部材が設けられている請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の使い捨ておむつ。

【請求項 7】

前記股部弾性部材は、吸収性本体のバックシートに設けられている請求項 6 に記載の使い捨ておむつ。

30

【請求項 8】

前記外装部材の前側胴部には、前記前側脚部弾性部材よりも前後方向の前方に、幅方向に延びる前側胴部弾性部材が設けられ、

前記外装部材の後側胴部には、前記後側脚部弾性部材よりも前後方向の後方に、幅方向に延びる後側胴部弾性部材が設けられている請求項 1 ~ 7 のいずれか一項に記載の使い捨ておむつ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、パンツ型の使い捨ておむつに関するものである。

40

【背景技術】

【0002】

従来、ウェスト開口部と一对の脚開口部を有するパンツ形状に形成された使い捨ておむつが広く知られている（例えば、特許文献 1 ~ 5）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】特開平 8 - 280739 号公報

特開 2004 - 049763 号公報

50

特開 2 0 0 4 - 2 9 8 3 9 5 号公報

特開 2 0 1 4 - 1 8 0 3 4 6 号公報

特開 2 0 1 7 - 0 6 3 8 4 9 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

パンツ形状に形成された使い捨ておむつには、脚開口部の縁に沿って脚部弾性部材が設けられることが多く、脚部弾性部材の収縮力によって着用者の脚周りのフィット性を高めることができる。一方、使い捨ておむつには尿等を吸収するための吸収性コアが設けられるが、脚部弾性部材の収縮力が吸収性コアに及んで吸収性コアが大きく歪むと、吸収性コアの着用者の股間部へのフィット性が低下し、尿等の漏れにつながるおそれがある。

10

【0005】

本発明は前記事情に鑑みてなされたものであり、その目的は、脚開口部の縁に沿って脚部弾性部材が設けられた使い捨ておむつであって、吸収性コアが大きく歪むことが抑えられ、着用者の股間部へのフィット性に優れた使い捨ておむつを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

前記課題を解決することができた本発明の使い捨ておむつとは、前側胴部と後側胴部とこれらの間に位置する股部とを有し、前側胴部と後側胴部とが接合されることによりウエスト開口部と一対の脚開口部とを有するパンツ形状に形成された使い捨ておむつであって；おむつの少なくとも股部には、トップシートとバックシートとこれらの間に配された吸収性コアとを有する吸収性本体が設けられ；吸収性コアは、前後方向の前側から、前側部と前側中間部と中央部と後側中間部と後側部とを有し、前側部と後側部は中央部よりも幅広に形成され、前側中間部と後側中間部はそれぞれ中央部から前側部または後側部に向かって幅が漸増するように形成され；吸収性本体の外側には外装部材が設けられ、外装部材は前側胴部と股部と後側胴部に配置されており；外装部材には、股部を横断し、脚開口部の前側の縁に沿って延びる前側脚部弾性部材と、股部を横断し、脚開口部の後側の縁に沿って延びる後側脚部弾性部材とが設けられ、前側脚部弾性部材は、吸収性コアの前側部および前側中間部と重なり、後側脚部弾性部材は、吸収性コアの後側部および後側中間部と重なり；外装部材には、吸収性コアの前側中間部、中央部および後側中間部の幅方向の外方に弾性部材が配されていないところに特徴を有する。

20

30

【0007】

本発明の使い捨ておむつは、上記のように吸収性コアが形成され、前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材が設けられているため、前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材が吸収性コアの幅方向の外縁に沿って、吸収性コアと重なるように配されることとなる。そのため、前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材が、吸収性コアの全体を着用者の股間部に向かって持ち上げるように作用しやすくなる。また、前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材が吸収性コアの前側中間部、中央部および後側中間部の幅方向の外方に配されないことにより、吸収性コアの幅方向の外縁およびその近傍が歪みにくくなり、吸収性コアの平面性が保たれやすくなる。そのため、吸収性コアが大きく歪むことなく平面性を保ったまま着用者の股間部に向かって持ち上げられ、吸収性コアの着用者の股間部へのフィット性を高めることができる。

40

【0008】

前側脚部弾性部材は、吸収性コアの前側部と重なる部分の少なくとも一部および吸収性コアの前側中間部と重なる部分の少なくとも一部が、幅方向に対して45°以上の角度で延在し、後側脚部弾性部材は、吸収性コアの後側部と重なる部分の少なくとも一部および吸収性コアの後側中間部と重なる部分の少なくとも一部が、幅方向に対して45°以上の角度で延在していることが好ましい。このように前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材が配されていれば、使い捨ておむつを着用した際に、前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材の収縮力によって吸収性コアが上方に向かって好適に持ち上げられやすくなり、吸収性コア

50

の着用者の股間部へのフィット性を高めることができる。

【 0 0 0 9 】

前側脚部弾性部材は、吸収性コアの前側中間部と重なる部分で、吸収性コアの前側中間部の幅方向の一方端部 5 % の領域および他方端部 5 % の領域には設けられず、後側脚部弾性部材は、吸収性コアの後側中間部と重なる部分で、吸収性コアの後側中間部の幅方向の一方端部 5 % の領域および他方端部 5 % の領域には設けられないことが好ましい。このように前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材が設けられていれば、吸収性コアの幅方向の外縁およびその近傍が歪みにくくなり、吸収性コアの平面性が保たれやすくなる。

【 0 0 1 0 】

前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材の前後方向の離隔長さは、股部の前後方向の長さの 2 0 % 以上であることが好ましい。このように前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材が配されていれば、使い捨ておむつの股部に前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材が存在しない領域が広く形成され、着用者の股間部で前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材による締め付け感やごわつき感が低減される。そのため、使い捨ておむつの着用感が向上する。

【 0 0 1 1 】

前側脚部弾性部材は、吸収性コアの前側部の幅方向の外方部から吸収性コアの前側部および前側中間部と重なる部分にかけて連続的に延びる連続部と、股部を横断する部分で断続的に延びる断続部を有し、後側脚部弾性部材は、吸収性コアの後側部の幅方向の外方部から吸収性コアの後側部および後側中間部と重なる部分にかけて連続的に延びる連続部と、股部を横断する部分で断続的に延びる断続部を有することが好ましい。このように前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材が設けられていれば、吸収性コアの平面性が全体にわたって確保されやすくなるとともに、吸収性コアが着用者の股間部に向かって好適に持ち上がりやすくなり、吸収性コアの着用者の股間部へのフィット性を高めることができる。

【 0 0 1 2 】

前側脚部弾性部材の連続部の後側端は幅方向に対して 2 5 ° 以上の角度で延在し、後側脚部弾性部材の連続部の前側端は幅方向に対して 2 5 ° 以上の角度で延在していることが好ましい。このように前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材が配されていれば、前側脚部弾性部材の連続部の後側端と後側脚部弾性部材の連続部の前側端において、前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材による収縮力が吸収性コアを上方に持ち上げる方向に作用しやすくなり、吸収性コアの着用者の股間部へのフィット性を高めることができる。

【 0 0 1 3 】

前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材の間には、吸収性コアの中央部と重なって、幅方向の一方側と他方側に前後方向に延びる股部弾性部材が設けられていてもよい。このように股部弾性部材が設けられることにより、股部弾性部材が前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材と協同して吸収性コアを着用者の股間部に向かって持ち上げるように作用する。そのため、吸収性コアの着用者の股間部へのフィット性を高めることができる。この場合、股部弾性部材は吸収性本体のバックシートに設けられることが好ましく、これにより、股部弾性部材を簡便に設置することができる。

【 0 0 1 4 】

外装部材の前側胴部には、前側脚部弾性部材よりも前後方向の前方に、幅方向に延びる前側胴部弾性部材が設けられ、外装部材の後側胴部には、後側脚部弾性部材よりも前後方向の後方に、幅方向に延びる後側胴部弾性部材が設けられていることが好ましい。前側胴部弾性部材と後側胴部弾性部材により、使い捨ておむつの着用者の胴周りのフィット性を高めることができる。また、このように各弾性部材を配することにより、前側脚部弾性部材と前側胴部弾性部材が互いの収縮力を阻害しにくくなり、後側脚部弾性部材と後側胴部弾性部材が互いの収縮力を阻害しにくくなるため、各弾性部材の収縮力が好適に発揮されやすくなる。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 5 】

本発明の使い捨ておむつは、前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材が吸収性コアの幅方向

10

20

30

40

50

の外縁に沿って、吸収性コアと重なるように配されているため、吸収性コアの全体が着用者の股間部に向かって持ち上げられやすくなる。また、吸収性コアの前側中間部、中央部および後側中間部の幅方向の外方に弾性部材が配されないことにより、吸収性コアの幅方向の外縁およびその近傍が歪みにくくなり、吸収性コアの平面性が保たれやすくなる。そのため、吸収性コアが大きく歪むことなく平面性を保ったまま着用者の股間部に向かって持ち上げられ、吸収性コアの着用者の股間部へのフィット性を高めることができる。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図1】本発明の使い捨ておむつの一例を表し、使い捨ておむつの斜視図を表す。

【図2】図1に示した使い捨ておむつの前側胴部と後側胴部との接合を解いて展開した状態を肌面側から見た平面図を表す。

10

【図3】図2に示した展開状態の使い捨ておむつを外面側から見た平面図を表す。

【図4】図2および図3に示した使い捨ておむつのIV-IV断面図を表す。

【図5】図2および図3に示した展開状態の使い捨ておむつにおいて、主に前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材と吸収性コアの配置を示した図を表す。

【図6】図3に示した外面側から見た展開状態の使い捨ておむつの平面図の変形例を表す。

【図7】図6に示した展開状態の使い捨ておむつにおいて、主に前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材と股部弾性部材と吸収性コアの配置を示した図を表す。

【発明を実施するための形態】

【0017】

20

本発明の使い捨ておむつについて、図面を参照して説明する。なお本発明は、図面に示された実施態様に限定されるものではない。図1～図5には、本発明の使い捨ておむつの一例を示した。図1は使い捨ておむつの斜視図を表し、図2は、図1に示した使い捨ておむつの前側胴部と後側胴部との接合を解いて平面に展開した状態を肌面側から見た平面図を表し、図3は、図2に示した展開状態の使い捨ておむつを外面側から見た平面図を表し、図4は、図2および図3に示した使い捨ておむつのIV-IV断面図を表し、図5は、図2および図3に示した展開状態の使い捨ておむつにおいて、主に前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材と吸収性コアの配置を示した図を表す。なお図面では、矢印xが幅方向、矢印yが前後方向を表し、矢印x, yにより形成される面に対して垂直方向が厚み方向zを表す。

30

【0018】

使い捨ておむつ1は、前側胴部Pと後側胴部Qとこれらの間に位置する股部Rとを有し、ウェスト開口部3と一対の脚開口部4を有するパンツ形状に形成されたものである。ウェスト開口部3は着用者の胴を通すための開口であり、脚開口部4は着用者の脚を通すための開口である。前側胴部Pは、おむつを着用の際に着用者の腹側に当てる部分に相当し、後側胴部Qは、おむつを着用の際に着用者の背側に当てる部分に相当する。使い捨ておむつ1において、前側胴部Pと後側胴部Qはウェスト開口部3と脚開口部4の間に位置する部分に相当する。股部Rは、前側胴部Pと後側胴部Qとの間に位置し、着用者の股間に当てる部分に相当する。股部Rは一対の脚開口部4の間に位置し、幅方向xの両側で互いに接合されない。使い捨ておむつ1は、前側胴部Pと後側胴部Qがサイド接合部11で接合されることによりウェスト開口部3と一対の脚開口部4が形成される。サイド接合部11は、例えば、前側胴部Pと後側胴部Qの幅方向xの両側を溶着により互いに接合することにより形成される。

40

【0019】

使い捨ておむつ1において、前後方向yは、おむつを着用した際に着用者の股間の前後方向に延びる方向に相当する。幅方向xは、使い捨ておむつ1と同一面上にあり前後方向yと直交する方向を意味し、おむつを着用した際の着用者の左右方向に相当する。使い捨ておむつ1はまた、肌面側と外面側を有する。肌面側とは、おむつを着用した際の着用者の肌に向く側を意味し、外面側とは、おむつを着用した際の着用者とは反対に向く側を意味する。

50

【 0 0 2 0 】

使い捨ておむつ 1 には、股部 R に、トップシート 8 とバックシート 9 の間に吸収性コア 1 0 が配された吸収性本体 7 が設けられる（図 2 ～図 4 を参照）。吸収性本体 7 は、少なくとも股部 R に存在すればよく、さらに前側胴部 P および / または後側胴部 Q に延在していることが好ましい。図面に示した使い捨ておむつ 1 では、パンツ形状に形成された外装部材 2 の肌面側に、トップシート 8 とバックシート 9 の間に吸収性コア 1 0 が配された吸収性本体 7 が設けられている。トップシート 8 は吸収性コア 1 0 の肌面側に配され、バックシート 9 は吸収性コア 1 0 の外面側に配される。

【 0 0 2 1 】

トップシート 8 は液透過性であることが好ましく、例えば、セルロース、レーヨン、コットン等の親水性繊維から形成された不織布や、ポリオレフィン（例えば、ポリプロピレン、ポリエチレン）、ポリエステル（例えば、P E T）、ポリアミド（例えば、ナイロン）等の疎水性繊維から形成された不織布であって、疎水性繊維の表面が界面活性剤により親水化されたもの等を用いることができる。また、トップシート 8 として、織布、編布、有孔プラスチックフィルム等を用いてもよい。

10

【 0 0 2 2 】

バックシート 9 は液不透過性であることが好ましく、例えば、ポリオレフィン（例えば、ポリプロピレン、ポリエチレン）、ポリエステル（例えば、P E T）、ポリアミド（例えば、ナイロン）等の疎水性繊維から形成された不織布や、プラスチックフィルム等を用いることができる。また、不織布とプラスチックフィルムとの積層体を用いてもよい。

20

【 0 0 2 3 】

トップシート 8 やバックシート 9 が不織布から構成される場合、不織布としては、スパンボンド不織布、エアスルー不織布、ポイントボンド不織布、メルトブロー不織布、エアレイド不織布、S M S 不織布等を用いることが好ましい。

【 0 0 2 4 】

吸収性コア 1 0 は、尿等の排泄物を吸収できる吸収性材料を含むものであれば特に限定されない。吸収性コア 1 0 としては、例えば、吸収性材料を所定形状に成形した成形体を用いることができる。吸収性コア 1 0 は、紙シート（例えば、ティッシュペーパーや薄葉紙）や液透過性不織布等のシート部材で覆われてもよい。吸収性コア 1 0 に含まれる吸収性材料としては、例えば、セルロース繊維（例えば、粉碎したパルプ繊維）等の親水性繊維や、ポリアクリル酸系、ポリアスパラギン酸系、セルロース系、デンプン・アクリロニトリル系等の吸水性樹脂等が挙げられる。また、吸収性材料には、ポリエチレン、ポリプロピレン等のポリオレフィン繊維や、P E T 等のポリエステル繊維、ナイロン等のポリアミド繊維等の熱溶着性繊維が含まれてもよい。これらの熱溶着性繊維は、尿等の体液との親和性を高めるために、界面活性剤等により親水化処理がされていてもよい。

30

【 0 0 2 5 】

吸収性材料は、尿等の吸収速度を高める点から、親水性繊維を含むことが好ましい。また、吸収容量を高める点からは、吸収性材料は吸水性樹脂を含むことが好ましい。従って、吸収性コア 1 0 は親水性繊維（特にパルプ繊維）と吸水性樹脂を含むことが好ましい。この場合、例えば、親水性繊維の集合体に吸水性樹脂を混合または散布したものをを用いることが好ましい。

40

【 0 0 2 6 】

吸収性コア 1 0 は、シート状吸収体であってもよい。シート状吸収体としては、不織布間に吸水性樹脂を有しパルプ繊維を有しないように形成されたものが挙げられる。このように形成されたシート状吸収体は不織布間に吸水性樹脂を有するため、高い吸収容量を実現できる。また、シート状吸収体は不織布間にパルプ繊維を有しないため、嵩張らず薄型に形成することができる。

【 0 0 2 7 】

吸収性コア 1 0 は、少なくとも股部 R に存在すればよく、さらに前側胴部 P および / または後側胴部 Q に延在していることが好ましい。吸収性コア 1 0 は略砂時計形に形成される

50

。具体的には、図 5 に示すように、吸収性コア 10 は、前後方向 y の前側から、前側部 10 A と前側中間部 10 B と中央部 10 C と後側中間部 10 D と後側部 10 E とを有し、前側部 10 A と後側部 10 E が中央部 10 C よりも幅広に形成され、前側中間部 10 B と後側中間部 10 D はそれぞれ中央部 10 C から前側部 10 A または後側部 10 E に向かって幅が漸増するように形成されている。このように吸収性コア 10 が形成されることにより、吸収性コア 10 は中央部 10 C で着用者の両脚から圧迫されにくくなり、おむつを着用した際に吸収性コア 10 が歪みにくくなる。

【0028】

吸収性コア 10 において、中央部 10 C が略砂時計形のくびれ部に相当し、前側中間部 10 B と後側中間部 10 D の幅方向 x の外縁が略砂時計形の傾斜縁部に相当する。吸収性コア 10 は、前側部 10 A および / または後側部 10 E が幅方向 x に最も広く形成され、中央部 10 C が幅方向 x に最も狭く形成される。前側部 10 A と後側部 10 E は幅方向 x の長さが同じであっても異なってもよく、図面では前側部 10 A と後側部 10 E が略同幅に形成されている。吸収性コア 10 は、幅方向 x の外縁が、前側中間部 10 B において中央部 10 C から前側部 10 A に向かって幅方向 x の外方に広がるように形成され、後側中間部 10 D において中央部 10 C から後側部 10 E に向かって幅方向 x の外方に広がるように形成されている。前側中間部 10 B の前後方向 y の長さとは後側中間部 10 D の前後方向 y の長さはそれぞれ、吸収性コア 10 の前後方向 y の長さの 3 % 以上であることが好ましく、5 % 以上がより好ましく、7 % 以上がさらに好ましく、また 25 % 以下が好ましく、20 % 以下がより好ましく、15 % 以下がさらに好ましい。なお、前側部 10 A と中央部 10 C と後側部 10 E はそれぞれ、幅方向 x の長さが実質的に変化しないように形成されていることが好ましい。

【0029】

吸収性コア 10 は、中央部 10 C と前側中間部 10 B と後側中間部 10 D が股部 R のみに位置することが好ましい。中央部 10 C は、外装部材 2 の股部 R の最も幅狭な部分を縦断して前後方向 y に延在していることが好ましい。中央部 10 C と前側中間部 10 B と後側中間部 10 D の前後方向 y の合計長さは、股部 R の前後方向 y の長さの 40 % 以上が好ましく、50 % 以上がより好ましく、また 80 % 以下が好ましく、70 % 以下がより好ましい。前側部 10 A と後側部 10 E は少なくとも股部 R に位置し、さらに前側胴部 P および / または後側胴部 Q に延在していることが好ましい。

【0030】

図 2 および図 4 に示すように、吸収性本体 7 には、幅方向 x の両側に立ち上がりフラップ 12 が設けられることが好ましい。立ち上がりフラップ 12 を設けることにより、尿等の排泄物の横漏れを防ぐことができる。立ち上がりフラップ 12 は、液不透過性であることが好ましい。立ち上がりフラップ 12 が立ち上がった状態の上端部（着用者側の端部）には、起立用弾性部材 13 が設けられることが好ましく、起立用弾性部材 13 の収縮力により立ち上がりフラップ 12 の起立が促される。

【0031】

吸収性本体 7 の外面側には外装部材 2 が設けられ、外装部材 2 は前側胴部 P と股部 R と後側胴部 Q に配置される。外装部材 2 は、例えば、前側胴部 P と後側胴部 Q とこれらの間に位置する股部 R とが連続するように形成される。この場合、外装部材 2 は、前側胴部 P と後側胴部 Q とを幅方向 x の両側で互いに接合することによりパンツ形状に形成することができ、吸収性本体 7 は、パンツ形状に形成された外装部材 2 の少なくとも股部 R の肌面側に設けられる。外装部材 2 はまた、前側胴部 P とそれに隣接する股部 R の一部と後側胴部 Q とそれに隣接する股部 R の他の一部に配置されてもよい。この場合、外装部材 2 は、前側胴部 P を含む部分と後側胴部 Q を含む部分とに分かれて構成され、吸収性本体 7 はこれら两部分に繋がって設けられ、吸収性本体 7 の一部は股部 R で使い捨ておむつ 1 の外面側に露出するように設けられる。図面に示した使い捨ておむつ 1 では、外装部材 2 はパンツ形状に形成されている。

【0032】

外装部材 2 は、前側胴部 P と後側胴部 Q において、吸収性本体 7 よりも幅方向 x の外方に延在するように設けられる。外装部材 2 は、股部 R においても、吸収性本体 7 よりも幅方向 x の外方に延在するように設けられることが好ましい。外装部材 2 はまた、吸収性本体 7 よりも前後方向 y の前方および後方に延在するように設けられることが好ましい。

【 0 0 3 3 】

外装部材 2 は、内側シート 5 と、内側シート 5 の外面側に配された外側シート 6 を有することが好ましい。吸収性本体 7 は内側シート 5 の肌面側に設けられることが好ましい。内側シート 5 と外側シート 6 は、液透過性であっても液不透過性であってもよく、トップシート 8 やバックシート 9 に使用可能なシート材料を用いることができる。図面では、内側シート 5 と外側シート 6 はそれぞれパンツ形状を有するように形成されているが、外装部材 2 がパンツ形状に形成される場合は、内側シート 5 と外側シート 6 の少なくとも一方がパンツ形状に形成されていればよい。例えば、内側シート 5 と外側シート 6 の一方が股部 R において前後方向 y に分離して設けられてもよい。

10

【 0 0 3 4 】

外装部材 2 には、脚開口部 4 の縁に沿って脚部弾性部材 1 4 , 1 5 が設けられている。外装部材 2 が内側シート 5 と外側シート 6 から構成される場合は、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 は内側シート 5 と外側シート 6 の間に配されることが好ましく、また、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 は内側シート 5 および / または外側シート 6 に接着されることが好ましい。

【 0 0 3 5 】

前側脚部弾性部材 1 4 は、股部 R を横断し、脚開口部 4 の前側の縁に沿って延びるように設けられ、後側脚部弾性部材 1 5 は、股部 R を横断し、脚開口部 4 の後側の縁に沿って延びるように設けられる。前側脚部弾性部材 1 4 は、吸収性コア 1 0 の前側部 1 0 A および前側中間部 1 0 B と重なって設けられ、後側脚部弾性部材 1 5 は、吸収性コア 1 0 の後側部 1 0 E および後側中間部 1 0 D と重なって設けられる（図 5 を参照）。そして、外装部材 2 には、吸収性コア 1 0 の前側中間部 1 0 B、中央部 1 0 C および後側中間部 1 0 D の幅方向 x の外方に弾性部材が配されない。従って、前側脚部弾性部材 1 4 は、吸収性コア 1 0 の前側中間部 1 0 B と中央部 1 0 C の幅方向 x の外方には配されず、後側脚部弾性部材 1 5 は、吸収性コア 1 0 の後側中間部 1 0 D と中央部 1 0 C の幅方向 x の外方には配されない。

20

30

【 0 0 3 6 】

使い捨ておむつ 1 は、吸収性コア 1 0 が略砂時計形に形成され、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 が上記のように配されることにより、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 が吸収性コア 1 0 の幅方向 x の外縁に沿って、吸収性コア 1 0 と重なるように配されることとなる。そのため、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 が、吸収性コア 1 0 の全体を着用者の股間部に向かって持ち上げるように作用しやすくなる。また、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 が吸収性コア 1 0 の前側中間部 1 0 B、中央部 1 0 C および後側中間部 1 0 D の幅方向 x の外方に配されないことにより、吸収性コア 1 0 の幅方向 x の外縁およびその近傍が歪みにくくなり、吸収性コア 1 0 の平面性が保たれやすくなる。そのため、吸収性コア 1 0 が大きく歪むことなく平面性を保ったまま着用者の股間部に向かって持ち上げられやすくなり、吸収性コア 1 0 の着用者の股間部へのフィット性が高められる。

40

【 0 0 3 7 】

前側脚部弾性部材 1 4 は、吸収性コア 1 0 の中央部 1 0 C と重なって配されてもよい。後側脚部弾性部材 1 5 は、吸収性コア 1 0 の中央部 1 0 C と重なって配されてもよい。前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 は前後方向 y に互いに離隔して設けられることが好ましく、これにより前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 が互いの収縮力を障害せず、各弾性部材の収縮力が好適に発揮される。この場合、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 の前後方向 y の離隔長さは、使い捨ておむつ 1 の股部 R の前後方向 y の長さの 2 0 % 以上であることが好ましく、2 5 % 以上がより好ましく、3 0 % 以上が

50

さらに好ましい。このように前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 が設けられていれば、股部 R に前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 が存在しない領域が広く形成され、着用者の股間部で前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 による締め付け感やごわつき感が低減される。そのため、使い捨ておむつ 1 の着用感が向上する。一方、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 の収縮力によって吸収性コア 1 0 が着用者の股間部に向かって好適に持ち上げられるようにする観点から、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 の前後方向 y の離隔長さは、使い捨ておむつ 1 の股部 R の前後方向 y の長さの 70 % 以下であることが好ましく、60 % 以下がより好ましく、50 % 以下がさらに好ましい。

【0038】

前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 の前後方向 y の離隔長さは、使い捨ておむつ 1 の前側胴部 P と後側胴部 Q のサイド接合部 1 1 での接合を解いて展開して完全に広げた状態で規定する。具体的には、このように使い捨ておむつ 1 を展開した状態で、使い捨ておむつ 1 に設けられる弾性部材を完全に伸張させた状態（例えば、弾性部材を細かく切断したりして弾性部材の収縮力が発現しない状態）で測定する。本明細書におけるその他の様々な長さ、位置、角度に関しても、同様にして測定する。

【0039】

使い捨ておむつ 1 において、股部 R の前後方向 y の中心には前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 が存在しないことが好ましい。また使い捨ておむつ 1 において、股部 R に前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 が存在しない領域は、股部 R の前後方向 y の前側に偏って形成されていることが好ましい。従って、股部 R の前後方向 y の中心から前側脚部弾性部材 1 4 の後側端までの前後方向 y の長さは、股部 R の前後方向 y の中心から後側脚部弾性部材 1 5 の前側端までの前後方向 y の長さよりも長いことが好ましい。例えば、股部 R の前後方向 y の中心から前側脚部弾性部材 1 4 の後側端までの前後方向 y の長さは、股部 R の前後方向 y の中心から後側脚部弾性部材 1 5 の前側端までの前後方向 y の長さの 1.2 倍以上が好ましく、1.3 倍以上がより好ましく、また 3.0 倍以下が好ましく、2.5 倍以下がより好ましい。このように前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 が配されることにより、使い捨ておむつ 1 を着用した状態で着用者が脚を前後に動かしやすくなる。例えば、着用者が脚を前に動かす際に、前側脚部弾性部材 1 4 によって脚の動きが阻害されにくくなり、また前側脚部弾性部材 1 4 によるごわつき感を着用者が覚えにくくなる。

【0040】

前側脚部弾性部材 1 4 は、股部 R を横断する部分で断続的に延びていることが好ましい。後側脚部弾性部材 1 5 は、股部 R を横断する部分で断続的に延びていることが好ましい。すなわち、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 は、幅方向 x に平行に延在する部分の少なくとも一部が断続的に設けられていることが好ましい。このように前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 が設けられていれば、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 が股部 R を横断する部分で吸収性コア 1 0 が歪みにくくなり、吸収性コア 1 0 の平面性が保持されやすくなる。そのため、吸収性コア 1 0 の着用者の股間部へのフィット性を高めることができる。

【0041】

前側脚部弾性部材 1 4 および / または後側脚部弾性部材 1 5 を断続的に設ける場合は、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 を内側シート 5 および / または外側シート 6 に接着固定した後、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 をカッター等で切断すればよい。このようにすることで、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 を製造上簡単に断続的に設けることができ、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 が断続的に設けられた部分で、弾性部材の収縮力を実質的に失わせることができる。

【0042】

前側脚部弾性部材 1 4 は、吸収性コア 1 0 の前側部 1 0 A と前側中間部 1 0 B と重なる部分で、前後方向 y の後方かつ幅方向 x の内方に向かって延びていることが好ましい。後側

10

20

30

40

50

脚部弾性部材 15 は、吸収性コア 10 の後側部 10 E と後側中間部 10 D と重なる部分で、前後方向 y の前方かつ幅方向 x の内方に向かって延びていることが好ましい。

【0043】

前側脚部弾性部材 14 は、吸収性コア 10 の前側部 10 A と重なる部分の少なくとも一部と吸収性コア 10 の前側中間部 10 B と重なる部分の少なくとも一部が、幅方向 x に対して 45° 以上の角度で延在していることが好ましく、50° 以上の角度がより好ましく、55° 以上の角度がさらに好ましい。当該角度の上限は特に限定されないが、例えば 75° 以下の角度が好ましく、70° 以下の角度がより好ましく、65° 以下の角度がさらに好ましい。前側脚部弾性部材 14 はまた、吸収性コア 10 の前側部 10 A と前側中間部 10 B の境において、このような角度で延在していることが好ましい。後側脚部弾性部材 15 は、吸収性コア 10 の後側部 10 E と重なる部分の少なくとも一部と吸収性コア 10 の後側中間部 10 D と重なる部分の少なくとも一部が、幅方向 x に対して 45° 以上の角度で延在していることが好ましく、50° 以上の角度がより好ましく、55° 以上の角度がさらに好ましい。当該角度の上限は特に限定されないが、例えば 75° 以下の角度が好ましく、70° 以下の角度がより好ましく、65° 以下の角度がさらに好ましい。後側脚部弾性部材 15 はまた、吸収性コア 10 の後側部 10 E と後側中間部 10 D の境において、このような角度で延在していることが好ましい。このように前側脚部弾性部材 14 と後側脚部弾性部材 15 が配されていれば、使い捨ておむつ 1 を着用した際に、前側脚部弾性部材 14 と後側脚部弾性部材 15 の収縮力によって吸収性コア 10 が上方に向かって好適に持ち上げられやすくなり、吸収性コア 10 の着用者の股間部へのフィット性を高めることができる。なお、幅方向 x に対する前側脚部弾性部材 14 の延在方向の角度は、幅方向 x と前側脚部弾性部材 14 の延在方向とのなす角の絶対値を意味し、幅方向 x に対する後側脚部弾性部材 15 の延在方向の角度は、幅方向 x と後側脚部弾性部材 15 の延在方向とのなす角の絶対値を意味する。本明細書におけるその他の角度も、幅方向 x となす角の絶対値を意味する。

【0044】

前側脚部弾性部材 14 は、吸収性コア 10 の前側中間部 10 B と重なる部分で、吸収性コア 10 の前側中間部 10 B の幅方向 x の一方端部 5% の領域および他方端部 5% の領域には設けられないことが好ましく、吸収性コア 10 の前側中間部 10 B の幅方向 x の一方端部 10% の領域および他方端部 10% の領域には設けられないことがより好ましい。後側脚部弾性部材 15 は、吸収性コア 10 の後側中間部 10 D と重なる部分で、吸収性コア 10 の後側中間部 10 D の幅方向 x の一方端部 5% の領域および他方端部 5% の領域には設けられないことが好ましく、吸収性コア 10 の後側中間部 10 D の幅方向 x の一方端部 10% の領域および他方端部 10% の領域には設けられないことがより好ましい。このように前側脚部弾性部材 14 と後側脚部弾性部材 15 が配されていれば、吸収性コア 10 の幅方向 x の外縁およびその近傍が歪みにくくなり、吸収性コア 10 の平面性が保たれやすくなる。図面に示した吸収性コア 10 では、前側中間部 10 B または後側中間部 10 D の一方端部または他方端部 5% の領域は、略平行四辺形の形状で形成される。

【0045】

前側脚部弾性部材 14 は、吸収性コア 10 の前側部 10 A の幅方向 x の外縁と重なる部分で、幅方向 x に対して 20° 以上の角度で延在していることが好ましく、25° 以上の角度がより好ましく、また 60° 以下の角度が好ましく、50° 以下の角度がより好ましい。後側脚部弾性部材 15 は、吸収性コア 10 の後側部 10 E の幅方向 x の外縁と重なる部分で、幅方向 x に対して 20° 以上の角度で延在していることが好ましく、25° 以上の角度がより好ましく、また 60° 以下の角度が好ましく、50° 以下の角度がより好ましい。このように前側脚部弾性部材 14 と後側脚部弾性部材 15 が配されていれば、使い捨ておむつ 1 を着用した際に、前側脚部弾性部材 14 と後側脚部弾性部材 15 の収縮力によって吸収性コア 10 が上方に向かって持ち上げられるとともに、吸収性コア 10 の前側部 10 A と後側部 10 E が幅方向 x に広がり、吸収性コア 10 の着用者の股間部へのフィット性を高めることができる。

10

20

30

40

50

【 0 0 4 6 】

前側脚部弾性部材 1 4 は、吸収性コア 1 0 の前側部 1 0 A と重なる部分から吸収性コア 1 0 の前側部 1 0 A の幅方向 x の外方にかけて延びていることが好ましく、サイド接合部 1 1 またはその近傍（例えばサイド接合部 1 1 から幅方向 x に 2 0 m m 以内の領域）まで延在していることが好ましい。後側脚部弾性部材 1 5 は、吸収性コア 1 0 の後側部 1 0 E と重なる部分から吸収性コア 1 0 の後側部 1 0 E の幅方向 x の外方にかけて延びていることが好ましく、サイド接合部 1 1 またはその近傍（例えばサイド接合部 1 1 から幅方向 x に 2 0 m m 以内の領域）まで延在していることが好ましい。これにより、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 の収縮力によって吸収性コア 1 0 の前側部 1 0 A と後側部 1 0 E が幅方向 x に広がりやすくなり、吸収性コア 1 0 の着用者の股間部へのフィット性を高めることができる。

10

【 0 0 4 7 】

前側脚部弾性部材 1 4 は、外装部材 2 の前側胴部 P において、前側胴部 P の前後方向 y の後側 1 / 3 の領域のみに設けられることが好ましい。また、外装部材 2 において、前側脚部弾性部材 1 4 は他の弾性部材と交差しないことが好ましい。後側脚部弾性部材 1 5 は、外装部材 2 の後側胴部 Q において、後側胴部 Q の前後方向 y の前側 1 / 3 の領域のみに設けられることが好ましい。また、外装部材 2 において、後側脚部弾性部材 1 5 は他の弾性部材と交差しないことが好ましい。このように前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 が配されることにより、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 によって脚開口部 4 の縁に沿ってギャザーが好適に形成され、使い捨ておむつ 1 の脚周りのフィット性を高めることができる。

20

【 0 0 4 8 】

前側脚部弾性部材 1 4 は、吸収性コア 1 0 の前側部 1 0 A の幅方向 x の外方部から吸収性コア 1 0 の前側部 1 0 A および前側中間部 1 0 B と重なる部分にかけて連続的に延びていることが好ましく、後側脚部弾性部材 1 5 は、吸収性コア 1 0 の後側部 1 0 E の幅方向 x の外方部から吸収性コア 1 0 の後側部 1 0 E および後側中間部 1 0 D と重なる部分にかけて連続的に延びていることが好ましい。また上記に説明したように、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 は、股部 R を横断する部分で断続的に延びていることが好ましい。従って、前側脚部弾性部材 1 4 は、吸収性コア 1 0 の前側部 1 0 A の幅方向 x の外方部から吸収性コア 1 0 の前側部 1 0 A および前側中間部 1 0 B と重なる部分にかけて連続的に延びる連続部と、股部 R を横断する部分で断続的に延びる断続部を有することが好ましく、後側脚部弾性部材 1 5 は、吸収性コア 1 0 の後側部 1 0 E の幅方向 x の外方部から吸収性コア 1 0 の後側部 1 0 E および後側中間部 1 0 D と重なる部分にかけて連続的に延びる連続部と、股部 R を横断する部分で断続的に延びる断続部を有することが好ましい。このように前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 が設けられていれば、吸収性コア 1 0 の平面性が全体にわたって確保されやすくなるとともに、吸収性コア 1 0 が着用者の股間部に向かって好適に持ち上がりやすくなり、吸収性コア 1 0 の着用者の股間部へのフィット性を高めることができる。

30

【 0 0 4 9 】

前側脚部弾性部材 1 4 の連続部の後側端 1 4 E は、幅方向 x に対して 2 5 ° 以上の角度で延在していることが好ましく、3 0 ° 以上の角度がより好ましく、3 5 ° 以上の角度がさらに好ましい。当該角度の上限は特に限定されないが、例えば 7 0 ° 以下の角度が好ましく、6 0 ° 以下の角度がより好ましく、5 0 ° 以下の角度がさらに好ましい。後側脚部弾性部材 1 5 の連続部の前側端 1 5 E は、幅方向 x に対して 2 5 ° 以上の角度で延在していることが好ましく、3 0 ° 以上の角度がより好ましく、3 5 ° 以上の角度がさらに好ましい。当該角度の上限は特に限定されないが、例えば 7 0 ° 以下の角度が好ましく、6 0 ° 以下の角度がより好ましく、5 0 ° 以下の角度がさらに好ましい。このように前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 が配されていれば、前側脚部弾性部材 1 4 の連続部の後側端 1 4 E と後側脚部弾性部材 1 5 の連続部の前側端 1 5 E において吸収性コア 1 0 を上方に持ち上げる方向に力が作用しやすくなり、吸収性コア 1 0 の着用者の股間部へのフ

40

50

フィット性を高めることができる。

【 0 0 5 0 】

前側脚部弾性部材 1 4 の幅方向 x の一方側の連続部の後側端 1 4 E と他方側の連続部の後側端 1 4 E の幅方向 x の離隔長さは、吸収性コア 1 0 の中央部 1 0 C の幅方向 x の長さの 3 0 % 以上であることが好ましく、4 0 % 以上がより好ましく、また 9 0 % 以下が好ましく、8 0 % 以下がより好ましい。後側脚部弾性部材 1 5 の幅方向 x の一方側の連続部の前側端 1 5 E と他方側の連続部の前側端 1 5 E の幅方向 x の離隔長さは、吸収性コア 1 0 の中央部 1 0 C の幅方向 x の長さの 3 0 % 以上であることが好ましく、4 0 % 以上がより好ましく、また 9 0 % 以下が好ましく、8 0 % 以下がより好ましい。このように前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 が配されていれば、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 の収縮力によって、吸収性コア 1 0 の幅方向 x の全体が上方に持ち上がりやすくなる。

10

【 0 0 5 1 】

前側脚部弾性部材 1 4 の連続部の後側端 1 4 E と後側脚部弾性部材 1 5 の連続部の前側端 1 5 E の前後方向 y の離隔長さは、使い捨ておむつ 1 の股部 R の前後方向 y の長さの 2 0 % 以上であることが好ましく、2 5 % 以上がより好ましく、3 0 % 以上がさらに好ましい。このように前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 が配されていれば、股部 R に前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 の収縮力が作用しない領域が広く形成され、着用者の股間部で前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 による締め付け感やごわつき感が低減される。一方、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 の収縮力によって吸収性コア 1 0 が着用者の股間部に向かって好適に持ち上げられるようにする観点から、前側脚部弾性部材 1 4 の連続部の後側端 1 4 E と後側脚部弾性部材 1 5 の連続部の前側端 1 5 E の前後方向 y の離隔長さは、使い捨ておむつ 1 の股部 R の前後方向 y の長さの 7 0 % 以下であることが好ましく、6 0 % 以下がより好ましく、5 0 % 以下がさらに好ましい。

20

【 0 0 5 2 】

股部 R の前後方向 y の中心から前側脚部弾性部材 1 4 の連続部の後側端 1 4 E までの前後方向 y の長さは、股部 R の前後方向 y の中心から後側脚部弾性部材 1 5 の連続部の前側端 1 5 E までの前後方向 y の長さよりも長いことが好ましい。例えば、股部 R の前後方向 y の中心から前側脚部弾性部材 1 4 の連続部の後側端 1 4 E までの前後方向 y の長さは、股部 R の前後方向 y の中心から後側脚部弾性部材 1 5 の連続部の前側端 1 5 E までの前後方向 y の長さの 1 . 2 倍以上が好ましく、1 . 3 倍以上がより好ましく、また 3 . 0 倍以下が好ましく、2 . 5 倍以下がより好ましい。このように前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 が設けられることにより、使い捨ておむつ 1 を着用した状態で着用者が脚を前後に動かしやすくなる。すなわち、着用者が脚を前に動かす際に、前側脚部弾性部材 1 4 によって脚の動きが阻害されにくくなる。

30

【 0 0 5 3 】

前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 はそれぞれ、複数本並んで外装部材 2 に配されていることが好ましい。図面では、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 はそれぞれ 4 本並んで配置されているが、2 本または 3 本並んで配置されていてもよく、5 本以上並んで配置されてもよい。このように前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 が配置されることにより、複数本の前側脚部弾性部材 1 4 によって帯状の前側脚部弾性領域が形成され、複数本の後側脚部弾性部材 1 5 によって帯状の後側脚部弾性領域が形成される。そのため、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 によって吸収性コア 1 0 をより安定して支えることができる。複数本の前側脚部弾性部材 1 4 が配置された幅、すなわち帯状の前側脚部弾性領域の延在方向に対する幅と、複数本の後側脚部弾性部材 1 5 が配置された幅、すなわち帯状の後側脚部弾性領域の延在方向に対する幅は、5 mm 以上が好ましく、8 mm 以上がより好ましく、また 3 0 mm 以下が好ましく、2 5 mm 以下がより好ましい。

40

【 0 0 5 4 】

50

前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 の間には、吸収性コア 1 0 の中央部 1 0 C と重なって、幅方向 x の一方側と他方側に前後方向 y に延びる股部弾性部材 1 6 が設けられてもよい。これについて図 6 および図 7 を参照して説明する。図 6 は、図 3 に示した展開状態の使い捨ておむつの平面図の変形例を表し、図 7 は、図 6 に示した展開状態の使い捨ておむつにおいて、主に前側脚部弾性部材と後側脚部弾性部材と股部弾性部材と吸収性コアの配置を示した図を表す。図 6 および図 7 に示した使い捨ておむつ 1 は、図 1 ~ 図 5 に示した使い捨ておむつ 1 に対して、さらに股部弾性部材 1 6 が設けられている。

【 0 0 5 5 】

図 6 および図 7 に示すように、使い捨ておむつ 1 には、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 の間に、吸収性コア 1 0 の中央部 1 0 C と重なって、幅方向 x の一方側と他方側に前後方向 y に延びる股部弾性部材 1 6 が設けられてもよい。このように股部弾性部材 1 6 が設けられることにより、股部弾性部材 1 6 が前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 と協同して吸収性コア 1 0 を着用者の股間部に向かって持ち上げるように作用する。そのため、吸収性コア 1 0 の着用者の股間部へのフィット性を高めることができる。股部弾性部材 1 6 は、吸収性コア 1 0 の中央部 1 0 C と重なるとともに前側中間部 1 0 B および / または後側中間部 1 0 D と重なって設けられてもよい。なお、股部弾性部材 1 6 は、吸収性コア 1 0 の前側部 1 0 A と後側部 1 0 E とは重ならないことが好ましい。

【 0 0 5 6 】

股部弾性部材 1 6 は、外装部材 2 に設けられるか、吸収性本体 7 のバックシート 9 に設けられることが好ましい。例えば股部弾性部材 1 6 は、外装部材 2 の内側シート 5 および / または外側シート 6 に接着されたり、吸収性本体 7 のバックシート 9 に接着されることが好ましい。なお、股部弾性部材 1 6 を簡便に設置できる点から、股部弾性部材 1 6 は吸収性本体 7 のバックシート 9 に設けられることが好ましい。

【 0 0 5 7 】

股部弾性部材 1 6 の前側端は、前側脚部弾性部材 1 4 の後側端またはその近傍（例えば、前側脚部弾性部材 1 4 の後側端から前後方向 y に 1 5 mm 以内の範囲）にあることが好ましく、股部弾性部材 1 6 の後側端は、後側脚部弾性部材 1 5 の前側端またはその近傍（例えば、後側脚部弾性部材 1 5 の前側端から前後方向 y に 1 5 mm 以内の範囲）にあることが好ましい。より好ましくは、股部弾性部材 1 6 の前側端は前側脚部弾性部材 1 4 の後側端から前後方向 y の後方 1 5 mm 以内の範囲にあり、股部弾性部材 1 6 の後側端は後側脚部弾性部材 1 5 の前側端から前後方向 y の前方 1 5 mm 以内の範囲にある。このように股部弾性部材 1 6 が配されれば、股部弾性部材 1 6 と前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 との一体性を高めることができる。

【 0 0 5 8 】

幅方向 x の一方側に配された股部弾性部材 1 6 と他方側に配された股部弾性部材 1 6 の幅方向 x の離隔長さは、吸収性コア 1 0 の中央部 1 0 C の幅方向 x の長さの 4 0 % 以上であることが好ましく、5 0 % 以上がより好ましく、また 8 0 % 以下が好ましく、7 0 % 以下がより好ましい。このように股部弾性部材 1 6 が配されていれば、股部弾性部材 1 6 の収縮力によって吸収性コア 1 0 の幅方向 x の全体が上方に持ち上がりやすくなる。

【 0 0 5 9 】

幅方向 x の一方側の股部弾性部材 1 6 と他方側の股部弾性部材 1 6 はそれぞれ、複数本並んで配されていることが好ましい。図面では、幅方向 x の一方側の股部弾性部材 1 6 と他方側の股部弾性部材 1 6 はそれぞれ 2 本並んで配置されているが、3 本以上並んで配置されていてもよい。このように股部弾性部材 1 6 が配置されることにより、股部弾性部材 1 6 の収縮力によって吸収性コア 1 0 をより安定して着用者の股間部に向かって持ち上げることができる。

【 0 0 6 0 】

使い捨ておむつ 1 は、図 1 ~ 図 3 および図 6 に示すように、前側胴部 P に、幅方向 x に延びる前側胴部弾性部材 1 7 が設けられ、後側胴部 Q に、幅方向 x に延びる後側胴部弾性部材 1 8 が設けられることが好ましい。前側胴部弾性部材 1 7 と後側胴部弾性部材 1 8 は、

10

20

30

40

50

ウェスト開口部 3 と脚開口部 4 の間に設けられる。前側胴部弾性部材 1 7 と後側胴部弾性部材 1 8 により、使い捨ておむつ 1 の着用者の胴周りのフィット性が高められる。なお、前側胴部弾性部材 1 7 と後側胴部弾性部材 1 8 のうち、ウェスト開口部 3 の縁に沿って前後方向 y に狭い間隔で設けられる弾性部材を腰部弾性部材 1 9 として設けてもよく、これにより着用者の腰周りに沿ったウェストギャザーが形成され、背中側や腹部側からの尿等の排泄物の漏れが防止される。図 1 ~ 図 3 および図 6 では、腰部弾性部材 1 9 は前側胴部弾性部材 1 7 と後側胴部弾性部材 1 8 よりも前後方向 y に狭い間隔で設けられている。

【 0 0 6 1 】

前側胴部弾性部材 1 7 と後側胴部弾性部材 1 8 と腰部弾性部材 1 9 は、外装部材 2 に設けられることが好ましく、内側シート 5 と外側シート 6 の間に設けられることがより好ましい。この場合、前側胴部弾性部材 1 7 と後側胴部弾性部材 1 8 と腰部弾性部材 1 9 は、内側シート 5 および / または外側シート 6 に接着されることが好ましい。

10

【 0 0 6 2 】

外装部材 2 は、ウェスト開口部 3 の縁に沿って折り返されていてよい。例えば、外側シート 6 がウェスト開口部 3 の縁で内側シート 5 側に折り返されていてよい（図示せず）。この場合、腰部弾性部材 1 9 は、折り返された外側シート 6 の間に挟まれて、外側シート 6 に接着されてもよい。

【 0 0 6 3 】

前側胴部 P において、前側胴部弾性部材 1 7 は前側脚部弾性部材 1 4 よりも前後方向 y の前方に配されることが好ましく、後側胴部 Q において、後側胴部弾性部材 1 8 は後側脚部弾性部材 1 5 よりも前後方向 y の後方に配されることが好ましい。すなわち、前側胴部弾性部材 1 7 は前側脚部弾性部材 1 4 と交差または接しないことが好ましく、後側胴部弾性部材 1 8 は後側脚部弾性部材 1 5 と交差または接しないことが好ましい。このように各弾性部材が配されることにより、各弾性部材の収縮力が互いに阻害されにくくなる。その結果、前側脚部弾性部材 1 4 と後側脚部弾性部材 1 5 によって使い捨ておむつ 1 の脚周りのフィット性を高めることができるとともに、前側胴部弾性部材 1 7 と後側胴部弾性部材 1 8 によって使い捨ておむつ 1 の胴周りのフィット性を高めることができる。

20

【 0 0 6 4 】

使い捨ておむつ 1 に設けられる各弾性部材としては、ポリウレタン系、ポリウレタンフィルム、天然ゴム等の通常の使い捨ておむつに用いられる弾性伸縮材料を用いることができる。各弾性部材は、伸張状態で使い捨ておむつに固定されることが好ましく、また、ホットメルト接着剤等の接着剤で固定されることが好ましい。例えば、繊維度 4 0 ~ 1 , 2 4 0 d t e x のポリウレタン系を、倍率 1 . 1 ~ 5 . 0 倍に伸張して配設し、固定する。接着剤としては、ゴム系のホットメルト接着剤を用いることが好ましい。なお、前記倍率は、非伸張状態を 1 . 0 倍とする。

30

【符号の説明】

【 0 0 6 5 】

- 1 : 使い捨ておむつ
- 2 : 外装部材
- 3 : ウェスト開口部
- 4 : 脚開口部
- 5 : 内側シート
- 6 : 外側シート
- 7 : 吸収性本体
- 8 : トップシート
- 9 : バックシート
- 1 0 : 吸収性コア
- 1 1 : サイド接合部
- 1 4 : 前側脚部弾性部材
- 1 5 : 後側脚部弾性部材

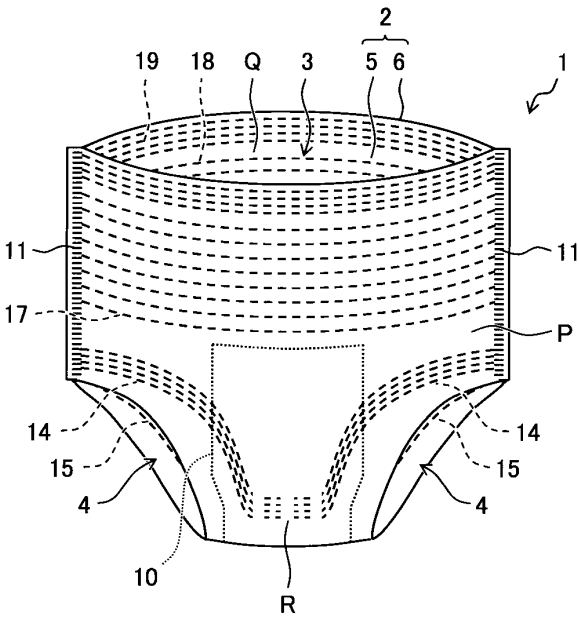
40

50

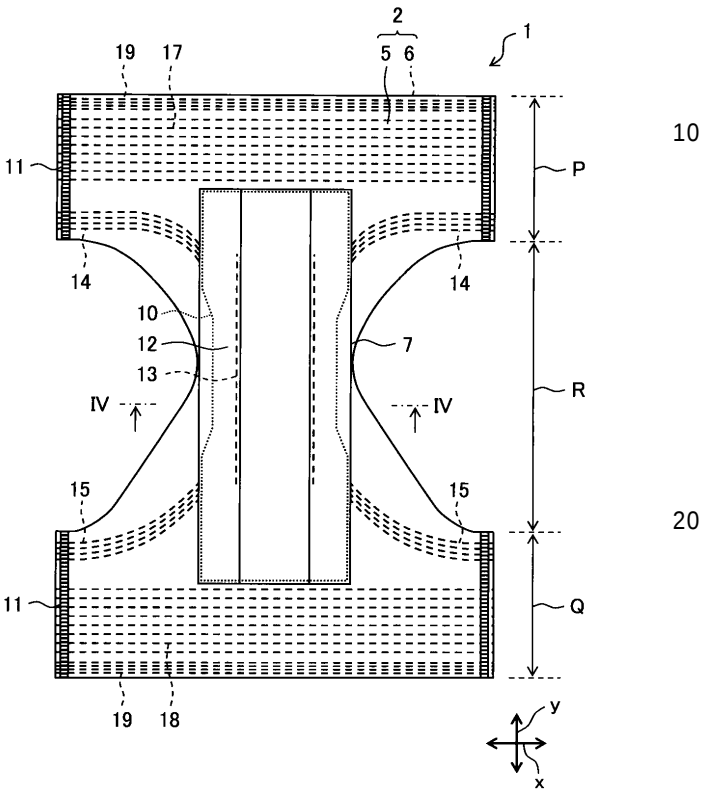
- 1 6 : 股部弹性部材
- 1 7 : 前侧胴部弹性部材
- 1 8 : 後侧胴部弹性部材
- 1 9 : 腰部弹性部材

【図面】

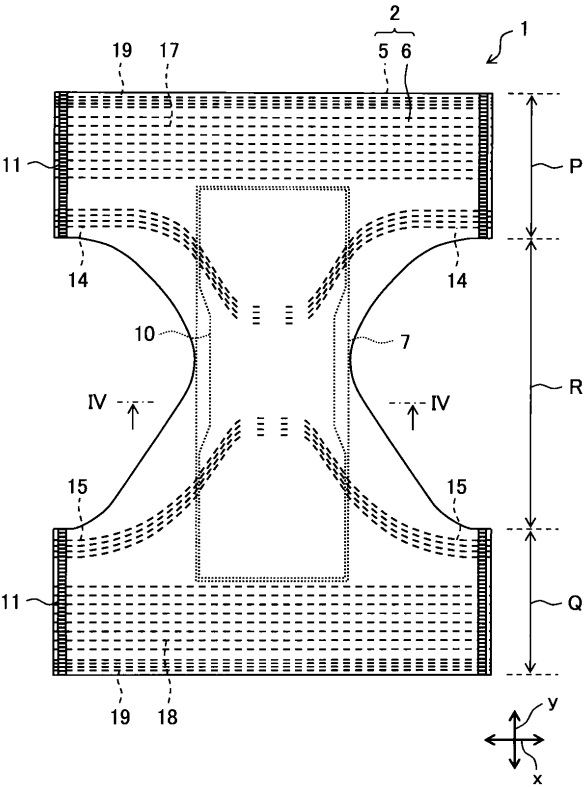
【図 1】



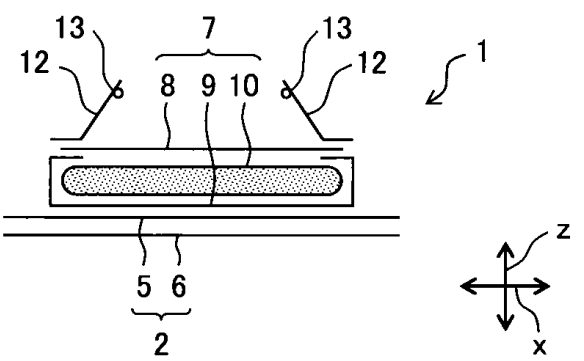
【図 2】



【図 3】



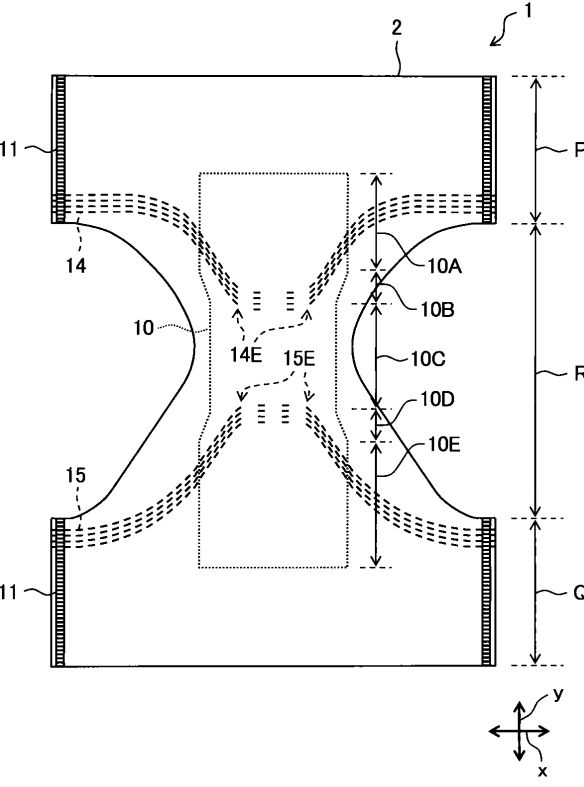
【図 4】



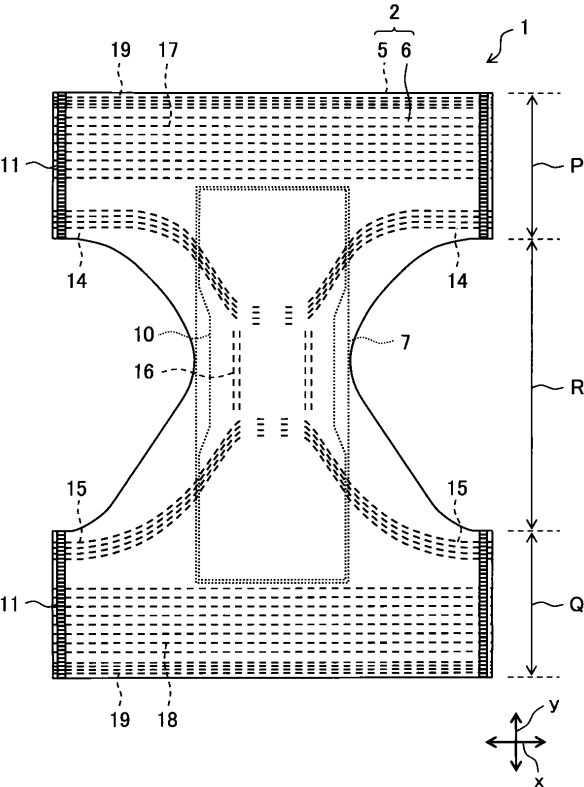
10

20

【図 5】



【図 6】

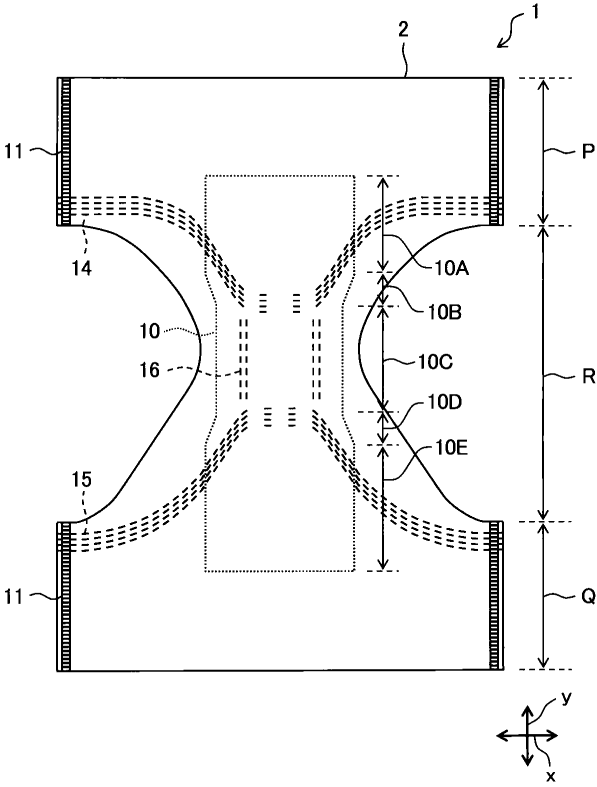


30

40

50

【図 7】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開 2 0 1 5 - 1 7 3 8 9 4 (J P , A)
 特開 2 0 0 1 - 0 8 7 3 1 0 (J P , A)
 特開 2 0 1 7 - 0 5 1 3 4 9 (J P , A)
 特開 2 0 1 4 - 1 8 0 3 4 7 (J P , A)
 特開 2 0 1 8 - 0 8 3 0 2 0 (J P , A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
 A 6 1 F 1 3 / 1 5 - 1 3 / 8 4